

## 事業提案書

団 体 名	皆瀬川筋漁業協同組合			事業区分	ハード・ソフト
事 業 名	「稲庭うどんの里」ふれあいパーク潤いある水辺空間事業			継続事業	年目
実 施 期 間	令和 8 年 6 月 日から 令和 11 年 3 月 31 日まで				
補 助 対 象 経 費	4,574,000 円		補助金申請額	500,000 円	
事業目的	課 題	(事業を計画するに至った課題とその原因はなにか) 近年、皆瀬、板戸ダム放流時に発生する濁水が長期間続き、河川環境の悪化により魚類、特に鮎が減少するなど、河川環境に活力が無くなり、河川で元気に活動する子どもたちの姿が希少化してきている。			
	目 的	(課題の原因を解決する目的はなにか) 子供たちがよりよい環境の中で、皆瀬川を通じた自然体験ができるように、地域住民が先頭となり、湯沢市民と共にアクションを起こし、豊かな自然と川とのふれあいの里づくりを推進し、皆瀬川流域の元気あふれる地域活性化を図る。			
事業内容	対 象	(事業の対象となるのは誰か) 皆瀬川流域の地域住民			
	内 容 (流れ)	(いつ、どこで、どの様な内容の事業を、どの様な方法で行うのか) 鮎の放流・生態調査・体験学習に備え、鮎の稚魚を飼育する清流を確保するため、河川敷地内（湯沢市稲庭町字葭淵51番地）へ井戸を整備する。このために河川敷地内に井戸掘削工事のための電源を確保する必要があるため、必要な電柱設置やプレハブの設置、イベント広場の整地を実施する。2年目にはいけす用の水槽設置、イベント広場駐車場の整地、3年目にはため池整備、簡易トイレやフェンスの設置を実施する。			
目標と計画	1 年目	目 標	電力引込、井戸掘削、水槽設置等	目標の根拠	整備したいけすでの体験学習の実施
		目 標	水槽の機能強化、広場整備	目標の根拠	体験学習の規模拡大
	2 年目	計 画	(どう発展して継続していくか、資金調達をどう行っていくか) 継続した環境整備を実施しながら、現施設で対応可能な範囲でイベントを実施していく。資金については、関係企業等からの事業協力金を充てる。		
		目 標	広場整備、イベント用品の購入	目標の根拠	体験学習の規模拡大
	3 年目	計 画	(どう発展して継続していくか、資金調達をどう行っていくか) 環境の整備が完了し、継続事業についても100%の規模で展開していく。資金については、関係企業等からの事業協力金を充てる。		
～5 年目		目 標	公園化による来場者数の増加	目標の根拠	公園としての常設開放
	計 画	(どう発展して継続していくか、資金調達をどう行っていくか) 継続事業は継続とし、整備された公園の常設開放によるにぎわい創出を図る。資金については、関係企業等からの事業協力金を充てる。			
規 制	(事業を行う上での規制はあるか、どのように対処していくのか) 河川法第26条、第27条による使用許可が必要である。県からは令和8年3月18日付で許可をいただいている。				

## (裏面)

	期 間	内 容	担当者		
事業スケジュール	4月 上旬	～	4月 中旬	電力引き込み	組合長
	5月 中旬	～		井戸ボーリング開始、ポンプ、発電機購入	組合長
	5月 中旬	～	5月 下旬	河川クリーンアップ	理事
	5月 下旬			稚魚放流体験	理事
	5月 下旬	～		安全啓発活動開始	理事
	6月 上旬	～	6月 下旬	いけす(8角形水槽)コンクリート打設 イベント広場整地、管理棟設置	組合長
	7月 下旬	～	8月 中旬	生態調査(水辺の教室)	理事
	9月 中旬			鮎まつり	理事
	月 旬	～	月 旬		
	月 旬	～	月 旬		
	月 旬	～	月 旬		
	月 旬	～	月 旬		
	月 旬	～	月 旬		
月 旬	～	月 旬			
住民参加	<p>(事業に対し、どのように住民が参加できるか)</p> <p>そこで暮らす住民自らが地域の環境の成り立ちを認識し、互いに価値ある空間を共有しているという意識を醸成することが出発点となる。イベントにおいては、地域住民の「互助・扶助・共助」の精神をもう一度育み、住民自治の団結力を構築できればとの思いで実施したところ、多くの子どもたちやボランティアスタッフが参加してくれた。今後はイベントのみならず、河川クリーンアップや体験学習に多くの方々を巻き込み、「関わり人口」を増やしていく。</p>				
事業のアピール点	<p>(地域の特性を活かした事業か、アイデアや着眼点のどこが優れているか)</p> <p>当漁協は、地域住民が自然とふれあえる「水辺空間の形成」を大切にしている。令和7年度は活動が認められ、雄勝地域振興局より「元気なふるさと・雄湯郷づくり県民運動」顕彰事業において表彰していただいた。今後は、これまでの稚魚放流体験や鮎まつりといった活動を継続しつつ、令和10年度にかけて体験場所やイベント広場の整備といった「潤いある水辺空間事業」をさらに拡大し、地域貢献を続けていく決意です。地域住民、特に子どもたちの思い出に残るふるさとを守り、多くの関係団体と手を取り合いながら、活動の輪(和)を広げていく。</p>				

※記載欄の過不足は適宜調整してください。